

令和 6 年度 第 2 回

丹波市地域公共交通活性化協議会
(丹波市地域公共交通会議)

議 事 録

閲覧用

1 開催日時 令和6年10月18日（金） 午後2時00分 開会

2 開催場所 ハートフルかすが

3 出席者 （委員）

北川博巳 会長
清瀬真紀子 委員
蘆田長門 委員
谷和義 委員
妹尾陽 委員
長谷芳彦 委員
永井敏之 委員
清水徳幸 委員

大野亮祐 副会長
竹内和重 委員
上田脩 委員
木原健太 委員
乳原正文 委員
岡田勝 委員[代理出席]
和田綱木 委員

委員15名出席

（オブザーバー）

大木玲子（丹波市商工会参事）
長尾文平（兵庫県交通政策課）[代理出席]

4 欠席者 新屋敷昭一 委員
長田貴 委員

芦田恒男 委員

5 会議に付した議題及び案件とその内容

1) 開 会

2) 会長あいさつ

3) 議 事

①デマンド（予約）型乗合タクシーの利用状況について

②路線バス運行社会実験（4～7月）結果報告及び実証実験（11～3月）について

③鉄道の利用促進の取組等について

④モビリティ・マネジメント事業実施報告について

⑤その他

4) 閉 会

1) 開 会

○事務局挨拶

○委員の紹介

○配付資料の確認

〈事前配布資料〉

- ・会議次第
- ・資料1から5

〈当日配布資料〉

- ・路線バス社会実験乗車実績表
- ・バス通学モニター(中高生及び保護者)アンケート調査結果報告書
- ・鉄道関連チラシ(3種)

2) 会長挨拶

10月は移動のハイシーズンでいろんなまちが活性化しているなど思うことがあります。丹波市はデマンド(予約)型乗合タクシー(以下、デマンドタクシー)がかなり充実してきており、高齢の方のお出かけも活発に感じます。さらに、ここ数年は小中学校の統廃合による学生世代の路線バス通学により移動が活発にもなっております。移動が整っていて、様々な方が移動出来ているまちは元気なまちだと私は改めて思うところがあります。その環境を整えるのは、調整や制約などある中で大変なこともあります。動きが活発になればなるほどそのまちは元気になると思いますので、今回も皆さんと協議を進めていければと思っております。

3) 議 事

① デマンド(予約)型乗合タクシーの利用状況について(事務局から説明)

【会長】

「①デマンド(予約)型乗合タクシーの利用状況について」何か質問、意見等ございますか。
あわせて運行事業者さんから報告等お願いします。

【委員】

デマンド運行システムの変更によって、丹波市の実情に合っていない事例が多々発生しております。システムのパラメータは距離と時間を基準にしております。利用者の利便性は、当然パラメータには入っていないく、今までの利用者にとっての使い勝手の良さが消えてしまいました。

デマンドタクシーはかつて、安くて便利な交通手段だったのが、不便な交通手段となってしまったという声が出ています。例えば、病院に行く際に以前は予約時間に間に合うよう気を利かせてもらっていたが、現在はA I配車のため、予約の時間に間に合うかどうか分からないといった事例などです。

また、運行事業者からは、号車による偏り、空運行、配車ルート等が効率的ではないということを知っています。他にも様々な声を事業者及び利用者、さらに予約の受付等をしているオペレーターから聞いております。

システム事業者と事務局で打合せを重ねてもらうことで改善の余地があるかとは思いますが、このままの運行が続くと、利用者数は現在微減で抑えられておりますが、このままのサービスだとデマンドを利用しようと思う方がどんどん減っていき、利用者激減に繋がるかと思われます。

先細りのシステムになってしまうのではないかと危惧しております。こういった思いも踏まえて改善・改良をしていっていただきたく存じます。

【事務局】

ご指摘のあった通り、運行に関し効率的ではない面もございます。以前はオペレーターによって、マニュアル配車のメリットである、個々の状況や要望に応じ買い物時間や病院の予約時間をかなり考慮し、配車を組まれていました。

こういったマニュアル配車からA I 配車になったことによって、どうしても数値的な自動配車となるため、なかなか個別の事情を考慮した配車はできません。こういった面は、以前から利用されていた方からすると利便性の低下と感じられていることも認識しております。

しかし、デマンドタクシーは乗合交通ですので、たくさんの方がご利用されることを考えますと、以前のように個別の事情を考慮し運行するという事は、なかなか難しいです。

ご指摘のあった、配車ルートが効率的ではないことについて、運行事業者さんにご負担をおかけしていますので、システム事業者と問題点の洗い出しを現在している最中です。さまざまな要因や利用状況、場面によって最善は異なりますので、検証を重ねております。現在改善に向け動いておりますので今しばらくお待ちいただきますよう、ご了承願います。

【会長】

最適な答えを導き出すにはデータの蓄積が必要となり、重要なのはどう学習させるかです。正しく学習させるには、現状の問題を正しくシステム事業者に伝える必要があります。ユーザーからのフィードバックが重要となるので、運行事業者・利用者ともに具体的にお伝えすることが大切だと私は思っております。

【委員】

以前はオペレーターの方の配慮によって事情に応じて配車されていましたが、現在はシステムによって配車するので、利用状況等で受け付けることができない人が出てきてしまっています。その方は個人タクシーに乗車していただいています。何がどのように改善されているのか目に見えておらず、ドライバーが利用者から遅い、何分待たせる等といった苦情を受けることが多くなった。

また、ドライバーは非効率な運行のせいでトイレへ行く時間もないことがあるくらい必死に運行しています。そんなことが重なって、ドライバーは疲弊してきており、利用者からの苦情に対し過敏になってしまっている。事業者の立場としては、ドライバーの心身が心配になることが多々あります。

【事務局】

従前のシステムのように、オペレーターによる個々の状況や要望に応じた配車をする事は、A I 配車システムでは出来ませんが、効率的な配車となるよう改善してまいります。

ただ、現在も全てのエリア、すべての時間で非効率な運行なわけではありません。氷上地域のような広いエリアや、時間帯によって予約が集中した場合などに利用者の待ち時間が増える等の配車になり、ドライバーの負担に繋がることなどがわかってきております。

A I による配車にもオペレーターが行う配車に比べて必ずしも効率的になっていない面もあり、運用上の課題はございますが、検証と改良を重ねながら徐々にではありますが効率的な運行ができるように努めてまいりますので、何卒ご理解のほどよろしくお願いします。

(他質問・意見等なし)

② 路線バス運行社会実験（４～７月）結果報告及び実証実験（１１～３月）について （事務局から説明）

【会長】

委員の皆様には、11月からの路線バス運行実証実験について、今回の会議に先立ち書面協議をいただきましたが、まずは今年4月から7月まで実施しました社会実験の結果について、改めて当協議会において実績確認を行いまして、その上で11月からの実証実験について説明をしていただきました。

「②路線バス運行社会実験（４～７月）結果報告及び実証実験（１１～３月）について」何か質問、意見等ございますか。

あわせて運行事業者さんから報告等お願いします。

（質問・意見等なし）

【委員（運行事業者）】

1学期の間、社会実験を実施し、中学生はほぼ100%乗車していただきました。高校生に関しては、実際の生徒数に対して半数くらいの乗車数となりました。路線バスが根付いていない地域ならではの結果ではないかと感じております。

他の路線・便に関しても、昼間の便に関しては利用人数がなかなか伸びていないのは、やはり路線バスに馴染みのない方が多く、マイカー移動に慣れてしまっており、マイカー交通から公共交通へ転換してもらうのは難しいことだと感じております。

社会実験を通して、路線バスやデマンドタクシーなどの公共交通は地域に対してどのような役割を果たしているものなのかを、地域の住民の方に考えてもらういい機会になったのではないのでしょうか。

【会長】

社会実験の総評をいたします。

- ・「野瀬～黒井駅」間は中高生通学利用が多く、今後も路線維持に期待がもてます。
- ・「戸坂～ライフピアいちじま」間は、実験での利用はあまりありませんが、小学校統合の通学支援路線になるため、令和8年4月以降の需要は確実であります。
- ・「ライフピアいちじま～医療センター」間は、単独での維持は難しいけれども、他の路線との組み合わせで有効な路線となります。また活性化協議会で長く議論してきた、市島地域から中心地までの移動手段が確保されるという点で路線が通ることの意義は非常に大きく、地域からの要望に応えることにもなります。

⇒以上のことから、社会実験の結果、需要確保と路線意義の観点から有用な路線であると結論付けたいと思います。

このことを踏まえ、令和8年4月からの本格運行に向けて、路線バス利用の機運を下げることなく移行することと、小学校統合時の通学における課題検証も含めて継続した路線バス運行のために実証実験を11月より実施いたします。

（異議なし）

③ 鉄道の利用促進の取組等について(事務局から説明)

【会長】

「③鉄道の利用促進の取組等について」何か質問、意見等ございますか。
あわせて運行事業者さんから報告等お願いします。

(質問・意見等なし)

【委員(運行事業者)】

加古川線はみなさんご存知の通り、大変厳しい状況が続いております。様々な利用促進事業を考えていただいて、実施していただき感謝しております。

JRが独自に実施していることとしては、一部の特急こうのとり各駅臨時停車です。今までのデータをみると、福知山線から加古川線へ乗り換えられる方が非常に少ない状態です。

特急こうのとり臨時停車も実証実験ということもあり、利用者が少なく低迷となれば、実証実験の期間が終われば従来のかたちに戻り、特急こうのとり谷川駅停車はなくなります。福知山線から加古川線へどのような方法、目的で乗り継ぎをするか悩んでいるところでございます。いい案があればお知恵をお貸しいただけますと嬉しいです。

④ モビリティ・マネジメント事業実施報告について(事務局から説明)

【会長】

前回の活性化協議会でもご報告いたしましたが、地域の小中学生等若い世代、これまであまり公共交通利用になじみがなかった世代に、公共交通の重要性を知る機会を提供する「モビリティ・マネジメント事業」を本年度より丹波市内の小中学校を対象にして実施しています。今年は社会実験の関係から春日中学校と三輪小学校でモビリティ・マネジメントを実施しました。活性化協議会としては初めての取組になりますので、事業実施報告を事務局より報告いただきました。

実施した小中学校は、実証実験地域の学校でしたが、今後全市に広げていく計画はありますか。

【事務局】

高校生については、丹波市路線バス定期券購入補助制度を地域問わず活用されており、利用者も増加傾向にあります。

高校に進学されると、通学の際に路線バスだけではなく、鉄道利用もされております。その他にもデマンドタクシー等の手段があることや、公共交通利用に目を向けていただく取り組みを、各地域をまわり実施していきたいと考えております。

【会長】

授業に導入されていた「移動プランの作成」はすごく大事なものだと思います。

これまでの生活の中での自動車依存があることを前提にすると、住民皆さんにも作成してほしいものです。

「どこどこへ行くにはどこのバス停の何時何分のバスに乗る。そのためには、何時何分までには家を出発する。買い物の場合は…」というような作成は、バリアフリーの世界ではよく取り入れられています。

「④モビリティ・マネジメント事業実施報告について」何か質問、意見等ございますか。

(質問・意見等なし)

⑤ その他について(事務局から説明)

- ・次回開催日について・・・令和7年2月頃目途開催

【委員】

通学の際に路線バスを活用される、いい取り組みを実施されていると感じております。先ほどいくつか指摘はありましたが、市内ではデマンドタクシーも運行されて、取りこぼしを防がれており全体をみていい取り組みだと思います。様々な課題に対して、AIなどのシステムが変わればそのたびに出てくるものですが、このいい取り組みをつぶさないように今後もこのような市民サービスを伸ばしていただきたいと思っております。

4) 閉 会

【副会長】

本日の議題にありましたモビリティ・マネジメント事業においては、公共交通に乘る・乗らないといったことではなく、幼いころから公共交通に慣れるということが大切だと感じております。例えば旅行へ行く際なども、公共交通で行けないか調べる、検討するといったことも1つだと思います。

本日は長時間にわたり慎重に議論いただきありがとうございました。